

大切な歯科保健

むし歯は感染症!!!



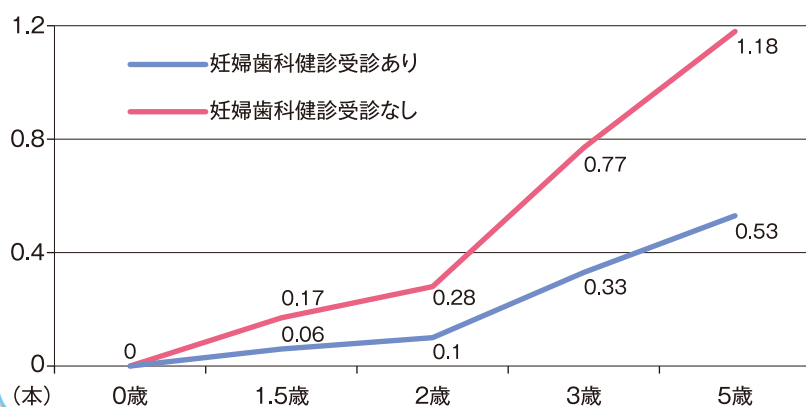
むし歯の原因となるむし歯菌(ミュータンス菌)は、産まれたばかりの赤ちゃんのお口の中には存在しません。生後、生活していく中で、“うつされる”のです。赤ちゃんと一緒にいる時間が長いお母さんが及ぼす影響は大きく、むし歯菌感染の約70%がお母さんから、残りがその他の家族等からの感染です。

よって、お母さんのお口の中が不健康(歯磨き習慣が不良でお口の中の細菌数が増加していたり、むし歯の処置をしていなかったり)だと、産まれてくるお子さんが将来、むし歯になるリスクが高まります。

お子さんのむし歯予防のためにも歯科健診を受けましょう!



妊婦歯科健診受診の有無とその子どものむし歯保有数



(笛吹市データより)

歯周病が早産・低出生体重児出産にも影響!?

歯周病は歯ぐきが腫れたり、出血したりと、いわゆる「炎症」を主な症状とする歯ぐきの病気です。

低出生体重児出産の原因は妊娠高血圧症候群、喫煙、薬物、ストレス、遺伝因子、細菌性腔症等と様々です。実は、歯周病も含まれ、歯周病によってそのリスクが5倍も高まり、また、早産に関しては7倍高まるのが最近の国内外の研究により明らかとなっています。

歯周病にかかっていると、胎盤や羊水を介して胎児の成長に影響を及ぼします。

また、低出生体重児は、将来大人になってから、心疾患、高血圧、メタボリック症候群、脳梗塞などを発症しやすいと言われています。

赤ちゃんの健やかな成長を守り、健康に過ごすためにも、家族みんなで適切なお口のケアを心がけましょう!

